

平成 25 年 9 月 1 日

今回は、最近テレビのコマーシャルでもよく耳にする「ジェネリック医薬品」についてのお話しをしたいと思います。

● 「ジェネリック医薬品」とは？

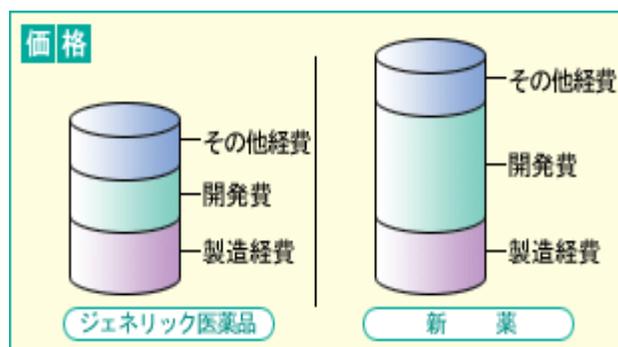
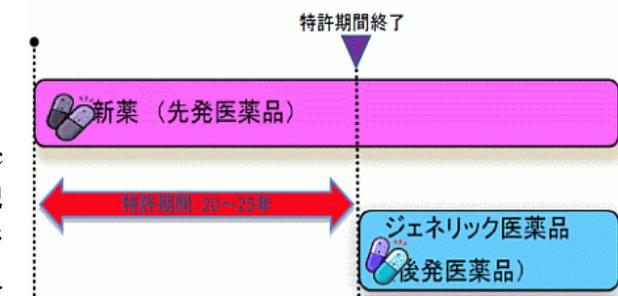
医療用医薬品は、**先発医薬品（新薬）**と**後発医薬品**とに分かれており、後発医薬品は**ジェネリック医薬品**とも呼ばれています。先発医薬品には医薬品メーカーによって独占的に製造・販売できる特許期間等があります。しかし、その期間が終わると、厚生労働大臣の承認を得れば、他の医薬品メーカーでも製造・販売することができるようになります。これがジェネリック医薬品です。

欧米では、医師が薬を処方する際に、商品名を記載するのではなく、generic name（一般名、成分名）を処方せんに記載することが多いため「generics」（ジェネリック医薬品）と呼ばれており、世界共通の呼称となっています。

ジェネリック医薬品は、先発医薬品と**有効成分やその含有量は同じで、効き目や品質、安全性が同等と考えられている医薬品**です。しかし、ジェネリック医薬品は先発医薬品の長年にわたる臨床使用経験（有効性・安全性等）に基づいて開発・製造されるので、開発コスト

が少なく済みます。そのため、ジェネリック医薬品は、先発医薬品に比べて低価格で供給することができ、**薬の価格は先発医薬品の 70% 以下**となっています。

また、ジェネリック医薬品の中には先発医薬品と薬の色や味が違うものもあります。製品によっては、より薬を飲みやすくするために、薬の大きさや味、においなどが工夫されたものもあります。



● ジェネリック医薬品はどれくらい使われているの？

ジェネリック医薬品は、世界中で広く普及しています。その中でも、ジェネリック医薬品がよく利用されているのはアメリカやイギリス、ドイツなどです。単純な比較はできないものの、民間の調査によると全体の 6 割以上をジェネリック医薬品が占めています。一方、日本では、ジェネリック医薬品が医療用医薬品全体に占める割合は、平成 21 年 9 月現在で **20.2%**にとどまっており、欧米に比べて普及が遅れている状況です。

● ジェネリック医薬品の種類

ジェネリック医薬品には、高血圧や糖尿病の薬、花粉症など、さまざまな病気や症状に対応しています。1つの先発医薬品に対し、複数のジェネリック医薬品が出ていることもあります。カプセル、錠剤、点眼剤など形態も豊富です。ただし、すべての先発医薬品についてジェネリック医薬品があるわけではありません。また、ジェネリック医薬品は先発医薬品と成分は変わりませんが、**適応病名や使用されている添加物が異なる場合があります**ので、注意が必要になります。**医師や薬剤師とよく相談したうえで、自分に合った薬を選びましょう。**

今、使用している処方薬について、ジェネリック医薬品があるかどうかを調べたいときは、日本ジェネリック医薬品学会ホームページの「**ジェネリック医薬品の検索**」で検索することができます。

アクセス → http://www.generic.gr.jp/index_sr.php

また、先発医薬品とジェネリック医薬品の差額を知りたい場合は、日本ジェネリック製薬協会のホームページの「**かんたん差額計算**」で調べることができます。1日の服用量が決まっている内服薬について、処方日数ごとあるいは1年間の差額を出すことができます。

アクセス → <http://www.jga.gr.jp/easycalc/>

● ジェネリック医薬品お願いカード

ジェネリック医薬品は、先発医薬品と同様、医師による処方が必要な医薬品です。ジェネリック医薬品を使いたいときは、**病院や診療所などの医療機関を受診したときに医師に相談するか、調剤薬局で薬剤師に相談してください。**

医師や薬剤師に、ジェネリック医薬品を希望することを直接話しにくいときは、「**ジェネリック医薬品希望カード**」を提示して、希望を伝えることができます。「ジェネリック医薬品希望カード」は、市町村、協会けんぽ及び健康保険組合などの各保険者や関係機関が、ジェネリック医薬品の普及啓発の一つとして配布しているものです。日本ジェネリック医薬品学会のホームページ (<http://www.generic.gr.jp/card.html>) からダウンロードすることができます。病院や保険薬局の受け付けで提示してください。